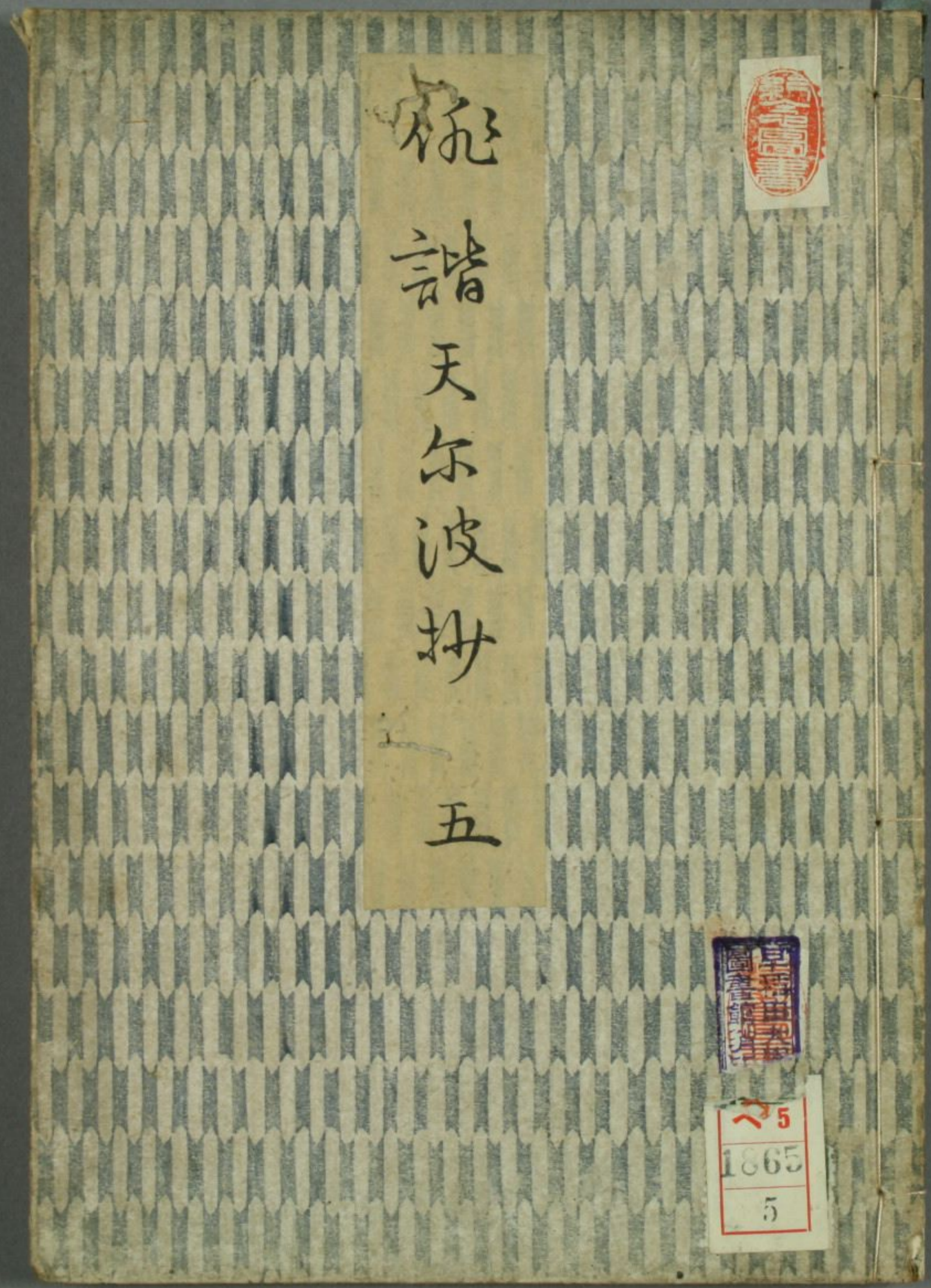


LICENSED PRODUCT

KODAK CLAY SCALE

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



飛  
諧  
天  
尔  
波  
抄  
五



5  
1865  
5



60

65

70

75

80

俳諧天尔波抄卷之五



〇六倫

〇可倫



俳諧天尔波抄卷之五  
[ベ]ー  
脚結新  
漢文可  
應當  
上下  
應當可  
ハ  
ハ



猿評

平田渺々としくゆりてるも先杜が唯や水の

かりしつゝもかかつかかつかかか

員

八重山ゆりてはしらりるる

猿

これぞやあまのりつゝも

日序

いづれせんかたきさいでぬぐ

日序

その白く魂の入りかたきさいでぬぐ

猿

白魚のーしりき時とはまきるる

日序

吾んかんが是非をさるるを船さんをも

ほの人かあま

冬

元政の草の積も破れぬ

いづれかたきさいでぬぐ

べりりたりたりと、奇なるもさるる。肺結核のつづ

猿

おぼろしくいづれかたきさいでぬぐ

日

これぞいづれかたきさいでぬぐ

春

口はくぐき清水がぬぐ

猿

ふせがきぬぐき

日

この痛え猿の持りき柳ふ

日

雪のしほ果のるる

猿

のうげさるる

員

わがまにいにいづれかたきさいでぬぐ

猿

竹のふれらるる

炭

踊るきりるる

碎るる

後 節 暎 源

日 往 記 冬 員 綫

わが祈 冬 員 綫

綫とをき

~~~~~

○不倫

【オ】

~~~~~

~~~~~

|                |         |              |       |        |             |       |        |        |        |
|----------------|---------|--------------|-------|--------|-------------|-------|--------|--------|--------|
| 猿              | 日       | 炭            | 猿     | 日      | 炭           | 猿     | 日      | 炭      | 猿      |
| この船を銀もア〜らぶ不問中さ | 淡井や鳥もくゞ | むつ〜き拍子みえず甲がら | 舞羽の鳥も | ん〜く〜ぬず | けさのよきさび〜ら〜る | 淫舞像赤き | い〜る〜ま〜 | い〜び〜る〜 | ありや〜る〜 |
| 世葱             | ら秀      | 曾良           | 甲校    | 吉本     | 冬和          | 治圃    | 斎了     | 冷水     | 望菽     |

|        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 炭      | 日      | 猿      | 炭      | 日      | 猿      |
| 今〜る〜る〜 | 市中に木葉も | い〜る〜る〜 | 今〜る〜る〜 | い〜る〜る〜 | い〜る〜る〜 |
| 夕夜     | 枕隣     | 卯高     | 夕夜     | 卯高     | 卯高     |







炭  
野坂  
人の物おとしひたて樂家元ざん  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり 其角  
ら、こゝろごとくしれおれし家のあり  
て、こゝろごとくしれおれし家のあり  
て、こゝろごとくしれおれし家のあり  
て、こゝろごとくしれおれし家のあり  
て、こゝろごとくしれおれし家のあり  
て、こゝろごとくしれおれし家のあり  
て、こゝろごとくしれおれし家のあり  
て、こゝろごとくしれおれし家のあり

日 一、こゝろごとくしれおれし家のあり  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり  
日 夫、こゝろごとくしれおれし家のあり

日  
 いろはのうらなほみくわは...  
 いづれいつづらぎつたて...  
 音のあはれ...

**あ**

あいざうりもつらかり...  
ワカ  
ウタ  
詞ヲ三ニワカチテ三貝トセリイハユルかぞへいあゆみコトナリかぞへハ  
スベテ句ノ上ニツク詞ナリまほはハ中ニアル詞ナリあゆみトハ下ニツク詞  
即天お  
波ナリ  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

荒 日 日 続

花の正書  
 音の月の集  
 牛の鼻羽のあつ  
 塵ほろ...  
 一井  
 一教  
 白堂



宇治松葉の... 武部... 山... 大船... 吉原... 其角... 表所... 行子...

冬

春

客あぐら... 裾折... 山... 大船... 吉原... 其角... 表所... 行子...











ねづもつあつてしら〜  
 ち〜  
 りかり。らん〜  
 今ライイ〜  
 ち〜  
 こ〜  
 こ〜  
 ちルサウチハ〜  
 「〜  
 の〜  
 サウニの〜

|   |    |   |   |
|---|----|---|---|
| 員 | う〜 | 員 | 〜 |
| 様 | 轆  | 員 | 〜 |
| 員 | 〜  | 員 | 〜 |
| 員 | 〜  | 員 | 〜 |

集 月 日  
 小夜碓 芭蕉  
 一年の書 日

○有倫



あり  
 御結〜

いひあつてなむいづらばさるるはつらひなりてはくせうし  
りびんぞとくふみあつたをどきんをしてさうふあはれでせ  
うはくはうわつやうく天の波にうづあふかへきはつらひなり  
あつてくふあつたはみさう

集

まゝくてもあつたきよめのはん唐がく

芭蕉

日

えんりや朝ぐあはれども塩くじら

日

くわく天の波のあつたこの次の句朝ぐあはれどもいづら  
こもてん脚注なり

炭

袴のまゝめ算入にあつた年のくれ

李由

猿

盗人のあつた夜にありぬくのれ

芭蕉

猿

梅のつゝ人のあつた悔れあり

芭蕉

員

いづらばさるるはつらひなりてはくせうし

芭蕉

猿

まゝくてもあつたきよめのはん唐がく

芭蕉

くわく天の波のあつたこの次の句朝ぐあはれどもいづら  
こもてん脚注なり

炭

袴のまゝめ算入にあつた年のくれ

李由

猿

盗人のあつた夜にありぬくのれ

芭蕉

員

いづらばさるるはつらひなりてはくせうし

芭蕉

集

まゝくてもあつたきよめのはん唐がく

芭蕉

日

えんりや朝ぐあはれども塩くじら

日

炭

袴のまゝめ算入にあつた年のくれ

芭蕉

猿

梅のつゝ人のあつた悔れあり

芭蕉

員

いづらばさるるはつらひなりてはくせうし

芭蕉

集

まゝくてもあつたきよめのはん唐がく

芭蕉



すゝかゝり。よゝむひのり。集中例をいふ

**あり** このかりも。よゝむのつゝふるはく。那利身（さぶらむ）なり  
こゝろなり。奇（あま）さやぐて。よゝむのつゝふるはく。よゝむのつゝふるはく  
はあゝゝ。菊（きく）ちよゝむこれかり。俗言（しや）のじやノジヤカどり。よゝむ  
よゝむなり。御結（おんむす）あよゝむ

日 続 日 荒 日 續 日 續 日 續  
馬士のソいお中（なかつ）なり。お月雨 史邦  
目利（めり）ど。あゝよゝむ。なかり 馬寛  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 如真  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 傘下  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 と軋  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 刺ぎ  
宿（しゆく）み。よゝむ。の月（つき）か。すゝかり 四水  
枚（まい）の。よゝむ。の。よゝむ。の。夜（よ）の。宿（しゆく） 支考  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。の。よゝむ。の。美（み）講（かう） 芭蕉  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。の。よゝむ。の。度（た）頭（とう）かり 里太  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。の。よゝむ。の。瓜（うり）一（ひと）き。よゝむ。の。よゝむ。の。 如紅

員 賦 日 炭 冬 日 日 荒 日 続 日  
馬士のソいお中（なかつ）なり。お月雨 史邦  
目利（めり）ど。あゝよゝむ。なかり 馬寛  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 如真  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 傘下  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 と軋  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。のひらり。 刺ぎ  
宿（しゆく）み。よゝむ。の月（つき）か。すゝかり 四水  
枚（まい）の。よゝむ。の。よゝむ。の。夜（よ）の。宿（しゆく） 支考  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。の。よゝむ。の。美（み）講（かう） 芭蕉  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。の。よゝむ。の。度（た）頭（とう）かり 里太  
よゝむ。よゝむ。よゝむ。の。よゝむ。の。瓜（うり）一（ひと）き。よゝむ。の。よゝむ。の。 如紅

此上ノありハ世例ナリ。下ノありハ那利身ノあり  
ナリ。ヨク味ハヒ知ルベシ



|               |              |               |                |                 |              |               |                   |              |              |                 |
|---------------|--------------|---------------|----------------|-----------------|--------------|---------------|-------------------|--------------|--------------|-----------------|
| 横             | 員            | 冬             | 日              | 炭               | 冬            | 僊             | 炭                 | 日            | 瓢            | 炭               |
| ふりまがらみ枝がらんたる梅 | や、初秋の夜もあがりなる | 冬ふり納豆もくちかるとぐー | まぐらもしまじなるるべしを薄 | 草一づりや鼻のそとから汗がふる | 藤相がら脱いどしぬ牡母ぬ | 結のやよ賢がる女もくちの体 | うのりもあつ寺のあつとつたかんぐー | 小刀の 恰又なり 細工箱 | 唯一方なる 草一 庵の露 | 太良がらひ何どつたふる細ゆとで |
| 文章            | 野水           | 日             | 素              | 茸角              | 風弦           | 重五            | 芭蕉                | 半残           | 浮磧           | 野夜              |

横  
句佳記

つよ斗ヲカふるぐートハウケガタシつとるカド  
トイフベキ例ナリ。コレハ書寫ノアヤマリニヤアラシ

五ノ六

|               |                |               |                |                |               |              |                |                       |               |
|---------------|----------------|---------------|----------------|----------------|---------------|--------------|----------------|-----------------------|---------------|
| 横             | 炭              | 集             | 荒              | 日              | 日             | 僊            | 員              | 炭                     | 瓢             |
| 飯粒がら 面桶より心火歩藻 | このよまはぢやう花の土所つら | うぶなもぬもぬぬひうさる祭 | さか娘やうらみの面山うかへん | あつのもや年のあたくはうきん | さし柳もあつたふるもきりう | 春もがらつらなる羊の体纏 | 山のもよおと機しのかけつから | 信言よナしよも妙からし信語のまじつひらもま | 人のものおそいぞ學かむじら |
| 惟約            | 州平             | 芭蕉            | 藤深             | 朴什             | 一笑            | 里園           | 心水             | 野夜                    | 野夜            |



野夜







我曲らるればなごくもなやせん。せんはなまのさし  
とよもせん高のめりなり。とよもせん壁をゆるるる。とよもせん壁を  
土と別けてある。とよもせん壁をゆるる。土のゆるる。ゆるる。ゆるる。  
かたわりのとよもせん。とよもせん。とよもせん。とよもせん。とよもせん。  
ゆるる。ゆるる。ゆるる。ゆるる。ゆるる。ゆるる。ゆるる。ゆるる。ゆるる。ゆるる。

日 十圍子と小粒よりなりぬ秋の風 序言  
日 うの歌とてなごくもなやせん 志考  
日 衡一宿所よりなりぬ年の中 志考  
日 宿の夜もとよもせんなやせん 志考  
日 暖踏とてなごくもなやせん 志考  
日 この歌とてなごくもなやせん 志考  
日 宿付とてなごくもなやせん 志考

日 大とびとてなごくもなやせん 志考  
日 里くの海とてなごくもなやせん 志考  
日 いのやとてなごくもなやせん 志考  
日 もみやとてなごくもなやせん 志考  
日 粟稗とてなごくもなやせん 志考  
日 羅綾のさりとてなごくもなやせん 志考  
日 春 あつとてなごくもなやせん 志考  
日 冬 月とてなごくもなやせん 志考  
日 員 ひととてなごくもなやせん 志考  
日 猿 木とてなごくもなやせん 志考  
日 鳥の羽とてなごくもなやせん 志考





集 徒 日 兼 日 徠 春 炭 徠 春 炭

旅鳥 古巢く梅く如く  
夷溝 破りし袴をばにたり  
えびの溝 鶯も鴨もかりたり  
心とともくこれくきよきなり  
暁もかりおんお寺の紅牡丹  
とくく 後つらめくごとくはたり  
細くあま一ま一まんははたり  
うぐりすれ一あもきい入たり  
ひとくく 後一もくははたり  
年貢すんごくはあはたり  
雪白く太春 祭るくく  
くは掃除してくはあたり  
芭蕉 日 刺合 古梵 一井 若男 泉景 刺平 吉来 芭蕉 野水 四校

徠 春 日 員 炭 春 日 徠

焼くく 客ヲヤキテ 夜くく 仲秋ノ夜 月も 夜ノ月 大津の渡り 大津ノ渡 入に 入 あり あり  
そく豆の心 豆ノ心 春の縁 春ノ縁 松芳  
芥子の花 芥子ノ花 月乃 月ノ げ げ 相撲 相撲 裁人  
帯 帯 末 末 草 草 の の 管 管 野萩  
三日 三日 月 月 草 草 の の 管 管 野萩

此の前の「や」の字は「や」の字に「ハ」を添へるソノ呼カ  
ガリシ人ニテ来集リケル「ヲ」思フ心ナリ。コレ前句  
ノ「ト」イフ天尔波ヲウケテ「ソ」ノ「サ」ヤキタリシヲ  
現在トシテ「ハ」ナリ。ソ「ト」ハ「ハ」ナリ。ソ「ト」ハ「ハ」ナリ。  
チアハセヤウ。後世ノ  
人ノ及バサル境ナリ

○ 此の前の「や」の字は「や」の字に「ハ」を添へるソノ呼カ  
ガリシ人ニテ来集リケル「ヲ」思フ心ナリ。コレ前句  
ノ「ト」イフ天尔波ヲウケテ「ソ」ノ「サ」ヤキタリシヲ  
現在トシテ「ハ」ナリ。ソ「ト」ハ「ハ」ナリ。ソ「ト」ハ「ハ」ナリ。  
チアハセヤウ。後世ノ  
人ノ及バサル境ナリ



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

炭  
天満の花をまきあきしきり  
胡枝

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

炭  
馬と馬よどり合たりほしきす  
能可  
日  
おのろと 籾川たり 合の月  
合吐  
後  
おの事 紙帳かけたさきり  
野枝  
倦  
おの事 掃くよきりなり 合の事  
胡枝  
日  
書 縁の人せむいしきり  
芭蕉

員 日 猿 瓢 倭 猿 員 炭 春 瓢 炭 員

さびき秋と女まをりをり 落橋  
うりくき鯉うりまのち 舟系  
炭電工も負の猪穴倒さるり 凡兆  
一貫の勢ひりりかへり 曲水  
娘入れ門もさるり流さるり 許六  
都もも伝まらるり角力に 生来  
序委向である勢性と流さるり 一井  
写りり仲のさるりあふり 文章  
深んんんり供乃さるり 砂頑  
毎このふねもあれこのりり 比葉  
梅さるり二月さるりワるり 初半  
森くぬ香も遠さるり 崖弾

炭 日 猿 員 炭 倭 員 炭 春 倭

赤みその口ゆめり梅の花 浴刀  
うりゆめゆめゆめゆめゆめ 初半  
五百のりけな二夜もさるり 砂坡  
三日月一巻のあふりり 之道  
桶のふりりいれ体とさるり 墨窓  
菊ぬれりり鉄なり花さるり 鬼舌  
度段のりりり女房さるり 占圃  
灰汁桶のりりりりりり 凡兆  
まもりりりりりりりり 傘下  
ゆりゆめあふりりりりり 生来  
田と持りりりりりりり 羽呈  
騎あへりりりりりりり 生来

炭 猿 員 炭 瓢 荒 日 続 荒 後

川端の隅に陣を敷きてとらふなり  
 本居ぬぐもぐにせむら暮の花  
 みづくら城を野を内れたり  
 龍宮の縁へとくうらめたり  
 羊喰の縁へとくうらめたり  
 龍宮の隅に陣を敷きてとらふなり  
 をりつゝとて逃ぐりむの枝  
 がよのあゝ蟻軍とのくたり  
 さらしは里とわよとくくたり  
 龍宮の隅に陣を敷きてとらふなり  
 りとくくたりとくくたりとくくたり  
 りとくくたりとくくたりとくくたり

川端  
 本居  
 又根  
 野水  
 時歩  
 芭蕉  
 菊口  
 若子  
 牛族  
 本節  
 釣者  
 文章

荒 日 荒 日 荒 日 荒 日 荒 日 荒

つらとあゝとらふとせむら暮の花  
 まぐくとあゝとらふとせむら暮の花  
 ひとらとあゝとらふとせむら暮の花  
 とらふとあゝとらふとせむら暮の花  
 雲の富士を草をむらとらふとせむら暮の花  
 まぐくとあゝとらふとせむら暮の花  
 年男のふとらふとせむら暮の花  
 湖の山をむらとらふとせむら暮の花  
 龍宮の隅に陣を敷きてとらふなり  
 飯のむらと梅の一本れ暮らりたり  
 枯葉の鳥のとらふとせむら暮の花  
 史科ニユク人ミニムカヒテ  
 りとくくたりとくくたりとくくたり

一井  
 蕉  
 冬松  
 とら  
 吹水  
 和泉  
 日  
 五本  
 文章  
 小  
 芭蕉  
 若子





く〜く〜いよぶ〜。かかろく〜いよぶ〜。古人の詩は  
白く〜いよぶ〜の肺肝をみる〜いよぶ〜いよぶ〜  
う〜。せ産は拍子よの〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜  
さま〜いよぶ〜

瓢 ひとりある子 鶏チヤゴ かつぐる 海頭

後 千里あまのの道 一けお 妻

冬 言ひく〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 柱

炭 一たせぐ〜厄の拍子とおとける 心後

後 ゆく〜いよぶ〜をゆる惜春いよぶ〜いよぶ〜 芭蕉

日序 伊賀の湖 一くる山中 一け〜いよぶ〜 甚角

荒 ぬら〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 酒の向 日

歌 くら〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 海頭

くん ぐんぐん 早きくる どり〜いよぶ〜 記かり せ〜いよぶ〜

秋のけ〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 事〜いよぶ〜 記かり 前案  
ぞのいよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 一〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜  
〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 一〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜  
〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 一〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜

員 かな〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 海頭

荒 お〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 折〜いよぶ〜いよぶ〜 亦泉

集 澄〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 川 船 世意

荒 ず〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 山や 甚角

後 くら〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 新稿の 甚角

日 白 記 む〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 一〜いよぶ〜いよぶ〜 芭蕉

拾 捕〜いよぶ〜いよぶ〜いよぶ〜 一〜いよぶ〜いよぶ〜 日



